



おくすり通信

No. 24 骨粗鬆症

こんにちは、薬剤科です。今月から高齢者社会で増加している「骨粗鬆症」について紹介していきます。

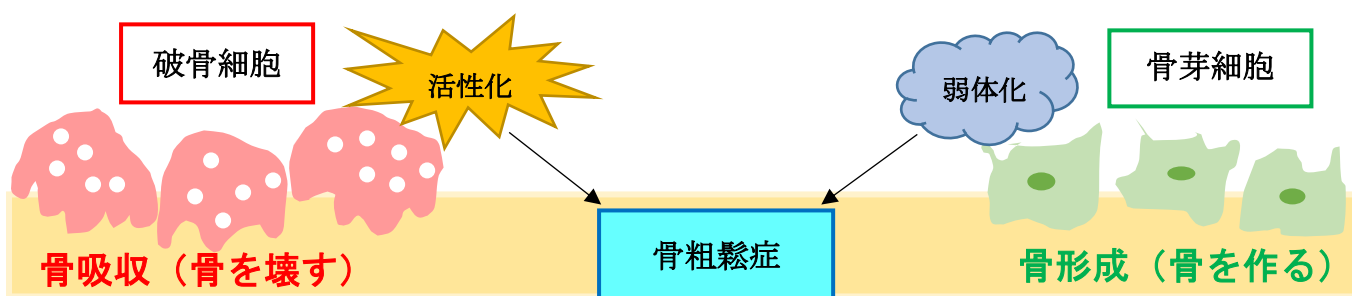
《骨粗鬆症とは》

骨粗鬆症は骨密度が低下して、骨がもろくなり骨折しやすくなる病気です。高齢者や閉経後の女性に多く、骨折後の寝たきりが問題となっています。骨折が起こりやすいところは、椎体骨、前腕骨、大腿骨近位部です。

《骨粗鬆症が起こるメカニズム》

骨には古くなった骨を壊す「破骨細胞」と、新しい骨を作る「骨芽細胞」という2種類の細胞が存在します。破骨細胞による骨破壊を「骨吸収」、骨芽細胞による骨の形成を「骨形成」と言います。骨は常にこの骨吸収・骨形成のサイクルを繰り返すことで、丈夫な骨を維持しています。しかし、女性ホルモン減少による破骨細胞の活性化や加齢に伴い骨芽細胞の機能が低下することで、骨量が減少してしまいます。

この骨量が低下すると骨の強度が弱まり、転倒や軽い日常動作でも骨折を起こすようになります。



《予防と治療》

骨粗鬆症を予防するには、Ca やビタミンD、ビタミンK など骨形成に役立つ栄養を含んだ食事とウォーキングや階段の昇降など骨に負荷をかける運動を日常的に取り入れることが重要です。

また骨粗鬆症と診断された場合、以下の薬物治療を開始します。

薬の種類（代表的な薬剤の商品名）	主な作用と特徴
ビスホスホネート製剤（アレンドロン酸）	破骨細胞による 骨吸収を抑える 。
活性型ビタミンD ₃ 製剤（エディロール）	腸管からのCa 吸収を促進する。血中のCa 濃度を増加して、 骨吸収を抑制する 。
選択的エストロゲン受容体モジュレーター（ピリアント）	エストロゲン受容体に結合して、 骨吸収を抑制する 。
抗RANKLモノクローナル抗体（プラリア皮下注）	破骨細胞を増やす物質であるRANKLを抑制 して、骨密度を上げる。
抗スクレロスチン後退（イベニティ皮下注）	骨形成の促進 、および 骨吸収を抑制 する2つの作用がある。
副甲状腺ホルモン製剤（フォルテオ、テリボン皮下注）	骨形成を促進 し、骨密度を増加させる。

今回はビスホスホネート製剤について詳しく説明していきます。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。